読書推進運動

公益社団法人
読書推進運動協議会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL　03(5244)5270
FAX　03(5244)5271
発行人　佐々木　泰
編集人　片岡　伸子

No.668

★公益社団法人 読書推進運動協議会 定時総会（1～4頁）

公益社団法人
読書推進運動協議会　2023年度　定時総会

推進運動の現場に立ち返り
読書が持つ価値を伝えていく

6月16日㈮午後3時より、東京都千代田区の出版クラブビル会議室において、「公益社団法人 読書推進運動協議会 2023年度 定時総会」が開催された。

野間省伸会長の挨拶のあと、定款第16条の規定により、野間会長が議長席につき、議事を進行した。

最初に事務局より、今回の出席会員は30名、委任状提出会員は173名、合計203名であり、定款第17条の規定による定足数、総会員の過半数138名を超えたので、総会は成立していることが報告された。

定款第20条の規定により、総会の議事録記名押印者として、野間会長、成瀬雅人常務理事、設楽敬一常務理事の3名が指名された。

議長を務める野間省伸会長

第一号議案は「『2022年度事業報告書および決算報告書』承認の件」。「2022年度 事業報告書」については、齋藤健司事業委員長に代わり、佐々木泰事務局長から報告が行われた。つづいて「2022年度 決算報告書」については、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録などについて、宮原博昭財務委員長に代わり、佐々木事務局長から説明が行われた。その後、監事を代表して春井宏之監事が、本決算は公正かつ正確であることを認証するとの監事報告を行った。議長は出席会員に諮り、それぞれ全員異議なく承認可決された。

第二号議案は「『役員改選』承認の件」。読書推進運動協議会の役員の任期は2年であり、本年は改選期にあたる。役員の改選については、構成団体から候補者の推薦を受け、17名の役員候補者名簿が議長より提示された。役員17名中、新任は奥村景一1名、退任は平林彰1名で、ほかは再任。定款第22条の規定に従い、議長は以上の推薦について出席会員に諮り、全員異議なく原案通り承認可決された。

第三号議案は「『2023年度事業計画書および収支予算書』報告の件」。「2023年度 事業計画書」と「2023年度 収支予算書」については、佐々木事務局長から説明があり、いずれも、2022年度 第3回理事会で承認されたことが報告された。議長は出席会員に諮り、全員異議なく了承された。

総会会場風景

野間議長による閉会の挨拶で総会は閉会したが、閉会後、別室にて2023年度 第2回理事会が開催され、定款第32条により新役員の役職が選定された。理事会終了後に総会会場で、役員の新たな役職分担が議長より報告され、すべての議事を終了した。

（敬称略）

■挨拶

公益社団法人
読書推進運動協議会
会長　野間　省伸

本日はお忙しい中、公益社団法人読書推進運動協議会、２０２３年度定時総会にご出席いただき、ありがとうございます。

今年の春から初夏にかけて急速に人も社会も動きが活発になり、各地で多くのイベントが行われております。読書推進運動協議会が展開する読書推進事業についても、春の「こどもの読書週間」の行事主催者は、昨年すでに１７４１件まで回復しておりましたが、今年も多くの行事が開催され、「読み聞かせ」や「おはなし会」「ワークショップ」などの活動も、各地で工夫をこらしてアイデア豊かに実施されております。

また、読書推進運動協議会に事務局を置く「子どもの読書推進会議」が、主催団体のひとつとして参加しております「上野の森親子ブックフェスタ２０２３」は、昨年3年ぶりにリアルで開催することができました。今年もリアル開催を実現するとともに、新たな試みとして2日間の集中開催といたしました。5月4日と5日、好天にも恵まれ、結果として来場者数、売上とも3日間開催の昨年を上回ることができました。各出展ブースでは著者サイン会なども多数行われ、リアルに紙の本を手に取り、人とふれあうことの楽しさ、素晴らしさをあらためて実感した2日間でした。

チャットGPTに代表される生成系AIサービスが急激に進歩して、私たちの仕事や生活に大きな影響を与え始めています。一方、技術やライフスタイルがどのように変わっても、人間にとって読書が持つ意味と価値は不変のものであると考えます。読書推進運動協議会は、従来にも増して、すべての方に本に親しむきっかけを提供してまいりたいと存じます。

今後ともみなさまのご支援とご協力をお願いしまして、ご挨拶といたします。

監査報告をする春井宏之監事

■２０２３年度　事業方針

読書推進運動の基本
人と人との交流を大切に

読書推進運動協議会は、おかげさまで本年度で創立64年を数えます。歴史の蓄積の上に立ちながら、読書の未来を見据えてこれからも活動を継続してまいります。

近年のコロナ禍によって、読書推進運動も大きな制約を受けてまいりましたが、一方で公共図書館でのデジタルサービス導入、学校教育のＩＴ化、読書推進運動におけるＳＮＳの活用などが促進された面もあります。また２０２２年度は公的な行動制限もなくなったため、読書会、読み聞かせ会、ワークショップなどの対面での行事や活動も行えるようになりました。コロナ禍が完全に終息したわけではありませんが、人と人とが直接交流して行うという読書推進運動の基本が回復されたことは大きな希望です。

「こどもの読書週間」「読書週間」の標語は、会員社のみなさま、全国の図書館、そしてホームページで一般の方々にも呼びかけて募集しています。とくに販売会社や出版社には事業委員として深く関わっていただき、それぞれの社員の方々からたくさんの応募をいただいています。２０２３年春の「こどもの読書週間」の標語は「ひらいてとじた 笑顔がふえた」に、秋の「読書週間」の標語は「私のペースで しおりは進む」に決定しました。こうした作業を進めるなかで、事業の認知度をより高めていくようにいたします。ここ数年は、図書館だけでなく、市町村の広報担当者からポスター画像の掲載について、問いあわせが増えてきました。

「読書週間」は、ポスターのイラストも一般から公募しており、２０１６年からは標語にあわせたイラストを公募し、標語と親和性の高い力作が多く寄せられています。また「こどもの読書週間」のポスターにつきましては、２０２３年より子どもたちに人気のある新進の絵本作家ユニット、ザ・キャビンカンパニーさんを起用し、標語にあわせた描き下ろしイラストで制作いたします。

私ども読進協の事業の基盤は、

永年にわたって構築してまいりました、読書推進活動に携わる現場のみなさまとの強固な絆です。読書週間事業の一環として行われている、全国の読書推進運動協議会の推薦をもとに選ばれる「全国優良読書グループ表彰」と、永年にわたって読書の普及に貢献された団体と個人を表彰する「野間読書推進賞」の顕彰事業は、関係団体や各道府県の読書推進運動協議会との緊密な協力関係のもとに推進しています。

全国の読書推進運動協議会から寄せられた推薦図書をもとに作成する、約21万部の「若い人に贈る読書のすすめ」と、約14万部の「敬老の日読書のすすめ」のリーフレットは、今年度も関係の団体を通じてお配りしていきます。学校や図書館からの問いあわせが多いのは、積極的に活用されている表れと思います。

２０２３年は、５年に一度おこなっている「全国読書グループ調査」の実施年にあたります。２０２４年に、調査をまとめた『２０２３年度 全国読書グループ総覧』の刊行を予定しています。本総覧は 全国の読書グループの実態を記録した、類例のない資料としての評価を頂戴し、公共図書館および類縁機関、会員公共図書館および類縁機関、会員社社、関係者、関係者、司書課程を有する大学、司書課程を有する大学など に配布して、ご活用いただいております。

機関紙『読書推進運動』は、これまでと同様に事業の紹介、関係団体・機関のニュースを中心に紙面づくりを心掛けます。「優良読書グループのあゆみ」やこれまでの野間読書推進賞受賞者の活動など、読書推進運動の現場を積極的に紹介してまいります。

ホームページでの「読書週間」「こどもの読書週間」のしおり、ポップなどの素材データの配信も好評をいただいております。さらに魅力ある素材の提供に取り組んでいきます。

なお、年々ポスター、リーフレットの需要が高まる一方、昨今の物価高騰により、印刷費や郵送料など事業に要する経費も上昇してきております。読書推進事業の継続性を維持するために、デリバリー方法の見直しなども含め、経費の効率的な運用を心掛けてまいります。

現在40道府県にそれぞれの読書推進運動協議会があり、読書推進運動協議会のさまざまな事業を行っていくにあたり、連携を強め、多大な協力をいただいています。しかし、読書推進運動協議会のない都府県が、７つあります。こうした都府県にあらためて働きかけ、事業の活性化をはかっていきます。

2023年度役員構成

順不同・敬称略

会長	野間　省伸	日本書籍出版協会（講談社社長）
副会長	奥村　景二	日本出版取次協会（日本出版販売社長）
同	森　茜	日本図書館協会（同顧問）
常務理事（財務委員長）	田仲　幹弘	日本出版取次協会（トーハン取締役副社長）
同（事業委員長）	齋藤　健司	日本書籍出版協会（金の星社社長）
同	成瀬　雅人	日本書籍出版協会（原書房社長）
同	矢幡　秀治	日本書店商業組合連合会（真光書店社長）
同	設楽　敬一	全国学校図書館協議会（同理事長）
同	宮原　博昭	日本雑誌協会（学研ホールディングス社長）
理事	秋本　敏	日本図書館協会（同図書紹介事業委員会委員長）
同	岡本　功	日本書籍出版協会（ひかりのくに社長）
同	星野　泰也	教科書協会（数研出版社長）
同	中部　嘉人	日本雑誌協会（文藝春秋社長）
同	渡部　正嗣	日本出版取次協会（日教販社長）
監事	春井　宏之	日本書店商業組合連合会（正文館書店社長）
同	竹村　和子	全国学校図書館協議会（同常務理事・事務局長）
同	佐藤　潤一	日本書籍出版協会（福音館書店社長）

事務局長　佐々木泰

公益社団法人　読書推進運動協議会　2023年度事業

名　称	期　間	内　容
2023 第77回 読書週間	10月27日 ～ 11月9日 (14日間)	・標語とイラストを募集、標語選定事業委員会とイラスト選定事業委員会にて決定し、ポスター6万5000枚を製作 ・雑誌広告を作成。雑誌協会を通じ、雑誌出版社に掲載協力を要請 ・道府県読書推進運動協議会、全国の公共図書館、小・中・高の学校図書館、書店、会員社、マスコミなどへポスターを送付。掲出を要請 ・「文字・活字文化の日（10月27日）」と連携 ・全国優良読書グループ表彰の実施 ・道府県読書推進運動協議会へ行事補助金贈呈。行事報告を要請し、機関紙別冊に掲載
2023 第65回 こどもの読書週間	4月23日 ～ 5月12日 (20日間)	・標語を募集、標語選定事業委員会にて決定。ポスター6万枚を製作 ・道府県読書推進運動協議会、全国の公共図書館、小・中・高の学校図書館、書店、会員社、マスコミなどへポスターを送付。掲出を要請 ・「子ども読書の日（4月23日）」「上野の森 親子ブックフェスタ」と連携 ・道府県読書推進運動協議会へ行事補助金贈呈。行事報告を要請し、機関紙別冊に掲載
第53回 野間読書推進賞	贈呈式は 11月2日	・読書推進運動に功績があった団体および個人を顕彰（2団体2個人が基本） ・贈呈式は「読書週間」期間中に開催
2023 敬老の日読書のすすめ	敬老の日を 中心に	・高年齢者を対象とした選定図書目録のリーフレットを14万3000部を製作 ・道府県読書推進運動協議会、公共図書館、書店、会員社などへ送付
2024 若い人に贈る読書の すすめ	1月～3月	・新成人、高校、大学の卒業生を対象とした選定図書リーフレットを21万部を製作 ・道府県読書推進運動協議会、公共図書館、高校・大学の図書館、書店、会員社などへ送付
全国読書グループ調査	9月～11月	・5年に一度、全国の公共図書館および類縁機関を対象に行う読書グループの活動状況の調査 ・全国公共図書館協議会の協力のもと、都道府県立図書館・道府県読書推進運動協議会を通じて調査票を配布 ・回答を集計し、その結果を『2023年度 全国読書グループ総覧』として2024年に刊行。全国の公共図書館および類縁機関、会員、関係者などに配布する
機関紙 『読書推進運動』	毎月	・機関紙『読書推進運動』を毎月発行するほか、別冊付録を年2回発行 ・発行部数　約5500部 ・道府県読書推進運動協議会、会員社、全国の公共図書館、関係団体などに送付
公式ホームページ	毎月2回更新	・団体事業の発信 ・機関紙バックナンバーの掲載 ・図書館・学校・書店の展示用に、各種事業のポップ・しおりなど、新規素材のデータ配信を行う
受託、共催、後援、協賛		・「子どもの読書推進会議」の事務局を担当 ・「伊藤忠記念財団」の子ども文庫助成事業の受託 ・文部科学省より「子ども読書の日」のポスター制作を受託 ・関連団体と読書推進事業を後援、協賛、協力

■学校図書館賞・学校図書館出版賞 発表

学校図書館の可能性を広げる 実践・出版企画が受賞

公益社団法人 全国学校図書館協議会（全国SLA）は、学校図書館の振興に著しい業績を示した個人および団体を顕彰する「第53回 学校図書館賞」、学校図書館向き図書の優良な出版企画に対して出版社を顕彰する「第25回 学校図書館出版賞」を発表した。

●第53回 学校図書館賞

・実践の部

勝山万里子（茨城県）

「探究的な学習の基礎を育む学校図書館の実践～STARTプログラムの開発とその活用～」

（学校図書館大賞、および学校図書館賞運動の部、論文の部は受賞者なし）

勝山さんの実践は、高等学校の学校司書としての10年間の実践をまとめたもので、生徒の情報活用スキル育成を目的としたもの。教員との打ちあわせを重ね、情報活用のプロセスごとに必要なワークシートを開発してプログラム化して、さらにテキストにまとめることで校内の全教職員と1年生が共有することを可能にしている。

●第25回 学校図書館出版賞

・学校図書館出版賞大賞

株式会社 国土社

『ひとりでできるかな!? 国土社のLLブック』読書工房／編著（全7巻）の刊行

・学校図書館出版賞

株式会社 汐文社

『地図でわかる世界の戦争・紛争』小川浩之／監修（全3巻）の刊行

株式会社 ポプラ社

『みんなに知ってほしいヤングケアラー』濱島淑恵／監修（全4巻）の刊行

・学校図書館出版賞特別賞

株式会社 あかね書房

『都道府県別伝統工芸大事典』宮原克人／監修の刊行

今回、選考対象となったのは2022年5月1日～2023年4月30日までに刊行され、全国SLAの選定図書になったもの。そのなかから84企画が候補としてノミネートされた。

両賞の表彰式は、7月6日㈭に東京都千代田区の城西国際大学紀尾井町キャンパス内で開かれた。

■日本絵本賞 表彰式

受賞者ほかの交流座談会で 絵本づくりの裏側を公開！

第28回 日本絵本賞（主催＝公益社団法人 全国学校図書館協議会）の表彰式が6月22日㈭、東京都千代田区の城西国際大学紀尾井町キャンパスで行われた。

大賞受賞の『PIHOTEK：北極を風と歩く』（講談社）の荻田泰永さん（文）、井上奈奈さん（絵）、絵本賞受賞の『がっこうにまにあわない』（あかね書房）のザ・キャビンカンパニー（作・絵）のおふたり、『ねことことり』（世界文化社）のたてのひろしさん（作）、なかの真実さん（絵）が出席。『橋の上で』（河出書房新社）の湯本香樹実さん（文）、酒井駒子さん（絵）は欠席、代理で河出書房新社の担当者が出席した。

表彰式と、最終選考委員長で絵本・美術評論家の松本猛さんから最終選考経過の報告があり、引き続いて新しい趣向である、受賞者、担当編集者、最終選考委員を交えての「交流座談会」が行われた。最終選考委員で全国学校図書館協議会研究部長の小林功さんの進行で、活発で楽しいセッションとなった。

今年の受賞者と最終選考委員のみなさん

荻田さん、井上さんと講談社の担当編集者は、内容はもちろん、紙選び、ブックデザイン、印刷工程すべてにおいて、極地の風景を最大に表現するために試行錯誤を重ねた結果、この絵本を世に出すことができたプロセスの苦労と楽しさを語った。担当編集者もこの企画を社内の業務フローにあわせるためのエピソードを紹介。

ザ・キャビンカンパニーは大分県在住の夫婦ユニット。廃校をアトリエとして作品を生み出していること、生きものは妻、など夫婦で役割分担して作画をしているが、ときに意見があわずケンカにもなるなど、制作の裏話をいきいきと語った。

絵、文、印刷……絵本づくりの舞台裏が披露された交流座談会

『ねことことり』の細密画については、たてのさんがなかのさんの師匠にあたるとのこと。作品の寓話的な世界観とそれを表現する細密画を、取材とコンテなどに手間暇を惜しまず、1年半の時間をかけて師弟で完成させたことを、ふたりそれぞれの立場で紹介した。

『橋の上で』については、同じく湯本さんと酒井さんのコンビによる2008年の作品『くまとやまねこ』があっての作品で、長い期間をかけてこの企画を実現させた喜びを、担当編集者が語った。

終了後懇親会もあり、クリエイターたちの話はさらに弾んだ。

優良読書グループの歩み (7)

2022年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。（順不同）

絵本とお話の会「フレデリック」

代表者　長沼　弘美
山形県最上郡大蔵村

〈推薦〉
山形県読書推進運動協議会

2002年11月9日、4組の絵本が大好きな親子で絵本を持ちより、公民館の一室を借りて読みあうことから、絵本とお話の会「フレデリック」が始まりました。

翌年、会員以外の人たちにも絵本の楽しさを伝える活動を始めました。村の助成金を活用し、絵本朗読家による絵本の会、その後は絵本作家講演会、表現力を高めるための研修兼講演会などを開催しました。

「子どもたちには子どものときにたくさんの本に出会ってほしい」という思いをこめて、2004年から村内保育所、小中学校、村事業での読み聞かせを始めました。しだいに、学校と村の図書室整備、貸出業務、ブックスタートと、活動の幅が広がり、学校、地域、行政との連携が図られるようになり、家族にも支えられ、現在13名の会員で活動し、今年で20年を迎えます。

街で会った子どもに「あっ、フレデリックさん」と声をかけられることもあり、読み聞かせを通して、みなさんに受け入れてもらっていることにいちばんの励みを感じています。

長く活動していると、いろいろな事情から会を辞めなければならない会員も出てきます。悲しい思いとともに、これからの運営方法に悩みもしました。しかし、そのようなとき、不思議にも私たちの会ではかならず新たな出会いがあり、新たな活動の芽が生まれました。

大きな感謝の気持ちで会の輪をつなげてきた20年でした。実際、活動を続けるには、仕事や家庭との両立でたいへんな部分があります。しかし、仲間たちはみんな、絵本や子どもたちとのふれあいを楽しんでいるのが、日々の会話から感じられます。

「絵本とお話の会」という名前には、絵本にこだわらないという思いもこめています。自分を高めるための研修会や他市町村の絵本作家講演会に参加したり、ときには、会員でクリスマスケーキ作りをしたり、楽しく無理なくが合言葉です。

20年という節目を迎え、今まで出会った多くの方々に感謝をし、これからの子どもたちのため、たくさんの絵本を読んでいきたいです。その子どもたちが大人になったとき、一冊でも心に残る思い出の本があることを願います。

研修、実演、図書室ボランティアと活動は多岐にわたる

朗読ボランティア「糸でんわの会」

代表者　上原　恵子
岐阜県下呂市

〈推薦〉
岐阜県読書推進運動協議会

「糸でんわの会」は1990年4月に発足し、市内の子どもたちや高齢者、障がい者福祉施設などの利用者を対象として、絵本や紙芝居の読み聞かせを通して、本の魅力を伝える活動を32年以上、継続的に行っています。会員は地域の有志15人が所属し、下呂市全域に渡って活動しています。

子どもたちに絵本や紙芝居の挿絵を見せながら朗読するだけでなく、実物投影機などを用いてスクリーンや大型モニターに挿絵を投影し迫力のある提示をしたり、効果音やBGMを取り入れた演出をしたりして、聞き手を物語の世界へ引き込む工夫をした朗読を行っています。読み聞かせなどを行うときには、かならず事前打ちあわせや会員同士での読み聞かせ練習を行うなど、よりよい形で聞き手ファーストを心がけた準備をしています。

あるとき、「下呂温泉としらさぎについての紙芝居があれば、子どもたちに読み伝えてほしい」という小学校の校長からの依頼がありました。下呂温泉としらさぎの話は、地域の昔話や伝記としては残ってはいましたが、絵本や紙芝居にはなっていませんでした。「地域の歴史・文化を子どもたちに伝えていく」ことが私たちの使命でもあると感じ、制作することを決めました。民話や昔話に関する書籍の調査・研究や、関わる史跡や神社仏閣などでのインタビュー活動などを行い、根拠のある紙芝居づくりを行いました。紙芝居の挿絵は地域で活躍する画家と協働し、地域の多くの人を巻きこんだ取組となり、関わる人たちの大き

地域の昔話を伝えるオリジナル紙芝居で地域貢献

な喜びや宝となりました。

現在では23作品を越えるオリジナルの紙芝居が完成し、市内のさまざまな場で伝え広げる活動を行っています。最近の作品では、「下呂温泉としらさぎ」（下呂温泉のはじまり）、「椀貸せ渕」、「観音滝物語」があります。既存の絵本や紙芝居の朗読だけでなく、こうした「生み出す・創り出す・巻きこむ」ことが地域づくりの一助になると信じています。

コロナ禍、制限があるなかでも対策を講じ、新しい形を模索した活動も行っています。寺や郷土館などの広い場所を利用したり、山や滝などの下呂の豊かな自然をバックにした読み聞かせイベントを行ったりと、ピンチをチャンスに変えていく取組につなげ、さらに発展させていきたいと考えています。

串良小学校読み聞かせボランティア「こころのしずく」

代表者　富松ひろみ

鹿児島県鹿屋市

〈推薦〉

鹿児島県読書推進運動協議会

「細く永く（長く）、会員が無理なく楽しく活動することが大切」

これは、私が初めてこころのしずくの会に参加した際、先輩方に教わったことばです。

そのことばのとおり、強制的に参加するのではなく、それぞれできる範囲で楽しんで活動しています。この活動理念こそが「こころのしずく」が、２０００年の発足以来23年間、細く永く続いている秘訣だと思います。

「こころのしずく」の活動紹介と言っても、むずかしいことはひとつもしていません。行っているのは、子どもが串良小学校に在籍している15名の会員による「週１回の読み聞かせ」「季節の読み聞かせ」「親子読書リレー」の３つの活動です。

子どもたちの心におはなしのしずくを一滴ずつ注ぐ

「週１回の読み聞かせ」は、毎週木曜日に行っています。毎週木曜日に学校へ行き、８時15分から25分までの10分間、担当の学年で読み聞かせを行っています。参加したばかりの会員からは「なにを読んだらいいのかわからない」と言われますが、「自分自身が楽しい本、心に残る本、子どもたちに聞かせたい本」を基本に選ぶようにアドバイスしてきました。そのため、読み聞かせが、子どもたちにとって今までに出会ったことのない本との出会いの場になります。ときには、読んだことのある本との再会もありますが、何回読んでもそのときの子どもの心の状態によって見方が変わってくると考えています。

「季節の読み聞かせ」は、１年に１・２回、季節やテーマにあわせて行っています。大型絵本を使った読み聞かせだけでなく、ブラックシアターやミニ肝だめし、ハンドベル演奏など、子どもたちも会員も楽しむことができるイベントも実施していて、毎回大盛況です。

「親子読書リレー」は、親子がふれあう時間を大切にするために、親子で一冊の本を交代で読み、感想を言いあうという活動です。

この３つの活動を続けることで、学校の先生方から「静かな雰囲気のままでスムーズに授業に入れるようになった」、「子どもたちの読書に対する意欲が高まった」など、うれしい感想をいただくようになりました。また、会員からも「子どもたちから『あの本、おもしろかった。また読んでね』と言われたことで交流が深まった」、「わが子を含め学級での子どもの様子がわかる」という感想があり、活動を続けることで、よいことが増えていると感じています。

絵本作家まついのりこさんは、「本を読み終わったとき、光は『心のしずく』になって、子どもの心の中にしみこんでいきます」とおっしゃっています。これが私たちのグループ名の由来です。私たちの活動が、子どもたちの心のしずくの一滴になるよう、これからも活動を「細く永く」続けていこうと思います。

事務局よりお知らせ

●『読書推進運動』お届け時期について

機関紙『読書推進運動』次号669号（２０２３年８月15日号）は、当事務局、印刷会社、発送業者の夏期休業により、８月17日出来、それ以降の発送となります。

●読書推進運動協議会　事務局夏期休業のお知らせ

８月11日㈭㈷～16日㈫

その間にメール・ファックスなどでいただいたお問いあわせは、17日以降、順次お答えいたします。

●「敬老の日読書のすすめ」書目およびリーフレットについて

機関紙『読書推進運動』669号での発表に先立ち、当協議会ホームページにて７月20日より書目リストを掲載いたします。展示やフェアなどの準備にご活用ください。リーフレットは例年同様、８月上旬に出来予定です。

みなさまにはご迷惑をおかけいたしますが、ご了承のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

■ちひろ美術館・東京、安曇野ちひろ美術館 展覧会

谷内こうたの世界につつまれる展覧会

ちひろ美術館・東京（東京都練馬区）では、6月24日㈯～10月1日㈰の期間、「谷内こうた展 風のゆくえ」を開催している。

日本人として初めてボローニャ国際絵本児童図書展でグラフィック賞を受賞するなど、国際的にも高い評価を得た、谷内こうたの絵本原画や雑誌表紙絵、タブローなどと、写真資料ほか約140点でその画業の全体像を紹介。会期中にはギャラリートークや絵本編集者の鼎談も予定されている。

同時開催の「ちひろ 子ども百景」では、赤ちゃんの月齢まで描きわけた、いわさきちひろの絵本原画とスケッチ、『私は赤ちゃん』など育児書の挿絵を展示する。

安曇野ちひろ美術館（長野県松川村）では「ちひろ美術館セレクション 2010～2021 日本の絵本展」を9月3日㈰まで開催中。東日本大震災やコロナ禍など激動の期間に出版された作品より、注目を集めた絵本や今後も活躍が期待される作家の作品約100点を紹介している。同展は10月7日㈯から、ちひろ美術館・東京でも開催予定。

開館日時やイベント情報など詳細はちひろ美術館ホームページ（https://chihiro.jp/）まで。

谷内こうた
『のらいぬ』（至光社）より
1973年（個人蔵）

■親地連　全国交流集会開催へ

子どもの本を通じていのちと平和を考える

親子読書地域文庫全国連絡会（親地連）は、10月7日㈯に東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで「親地連第24回 全国交流集会 すべての子どもに読書のよろこびを」（子どもゆめ基金助成事業）を開催する。

4年ぶりの対面開催となる今回のテーマは、「今こそ守ろう！ 生命（いのち）と平和」。読書を通じて、子どもたちにどのようにして平和な未来を渡すのかを考える。

記念講演は、中村桂子さん（JT生命誌研究館名誉館長の『生きものである私が読む書物―自然と本 ―生命誌の視点から―』。

分科会は、①読書ボランティア、②読書バリアフリー、③平和の3つを開催。それぞれ、話題提供者による発表のあと、参加者の発言も交えて実践の共有と意見の交換を行う。

参加には事前の申し込みと参加費が必要。スケジュールなど詳細や参加申し込み方法など詳細は、親地連ホームページ（https://www.oyatiren.info）まで。

親地連全国交流集会チラシと
QRコード

事務局報告（6月）

・6日＝子どもの読書推進会議2023年度 第1回 幹事会
☆7日＝機関紙『読書推進運動』667号入稿
☆8日＝機関紙『読書推進運動』667号責了
・9日＝出版クラブホールにて「JBBYトークイベント『世界の子どもの本はこんなに面白い！』」出席
・12日＝読売新聞東京本社にて「第21回活字文化推進会議」出席
☆13日＝機関紙『読書推進運動』667号出来
・15日＝参議院議員会館にて「『活字文化議員連盟』『学校図書館議員連盟』合同総会」出席
☆16日＝**2023年度 定時総会および第2回 理事会** 開催
☆16日＝絵本図書館ネットワーク 中島進代表と打ちあわせ
☆19日＝2023年度 定時総会および第2回 理事会 議事録作成
☆20日＝敬老の日読書のすすめリーフレット書目案決定
・20日＝JPICにて「上野の森親子ブックフェスタ2023 総括ミーティング」出席
・22日＝兵庫県書店商業組合 森忠延氏と打ちあわせ
・22日＝城西国際大学紀尾井町キャンパスにて「第28回 日本絵本賞大賞表彰式・交流座談会」出席
☆23日＝長坂司法書士事務所にて役員変更登記について打ちあわせ
・23日＝ちひろ美術館・東京の「谷内こうた展」内覧会 出席
☆24日＝「第77回 読書週間ポスターイラスト募集」応募締め切り
☆27日＝2023年度 第2回 常務理事会 案内状郵送
・29日＝文部科学省令和5年度「子供の読書活動の推進等に関する調査研究（読書活動の推進に携わる人材の育成）」審査表提出

●編集部＆事務局のひ・と・こ・と

●LINEのグループに、高校教師の友人が「ようやく重い腰を上げて、期末考査の作問に取りかかりました」と投稿したのを見て、「ああ、この時期がきたか」と私もため息。教員でなく、子どももいない私がなぜ？ と思われるでしょうが、それは夫のせいです。

●高校で化学を教える夫は、定期考査の問題を作ると、「チェックして」と私にパス。誤字脱字および意味が通る文章になっているかの校閲作業ですが、相手は化学。私には縁もゆかりもない用語で埋めつくされている文章を読むだけでも一苦労。この用語が指す作業はどんなことか、助詞の使い方がおかしいが実験の手順書はこのように記すのかなど、夫に確認を取りながら、進めます。そんな頼りない校閲者に対し、夫は「そろそろ門前の小僧なんとやらで、ぼくの代わりにテスト問題作らない？」と言い出す始末。私を生成系AIと思っているのでしょうか。

●友人の投稿は「前回、問題をむずかしくしすぎて、平均点がかなり下がってしまった」と続きます。生徒の到達度を計る定期考査は、平均点の落としどころも重要。授業での生徒の表情、教室の空気感など、データ化できない部分を考慮しながらの作問です。仮に生成系AIで問題を作っても、活用するには教師の経験と生徒を観察する目が必要となります。AIの活用が進めば進むほど、実際に時間と場を共有した体験が必要とされるのではないか、アボガドロ数に悩みながら思いました。（伸）